

令和元年度 第1回

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会 会議録

- 日時：令和元年5月31日（金）15時00分～16時40分
- 場所：市民交流プラザ 5F 中会議室
- 出席委員：松原座長、北中副座長、及川委員、肥塚委員、伊庭委員、堀江委員、
肥田委員、加藤委員、秦委員、阪本委員、松浦委員
- 欠席委員：武田委員、田畑委員、服部委員、青木委員、神部委員、深尾委員
- 傍聴者：なし
- 事務局：木村理事、本村調整員、中瀬参事、坂居専門員、田村囑託職員

【事務局】

定刻になりましたので、これより令和元年度第1回アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会を開催させていただきたいと思ます。

まず、今年2月に開催いたしました前年度最終の運営懇話会終了後、市議会等で当運営懇話会の開催場所をUDCBKにできないかとのお声を頂戴していたところですが、事務局で検討の結果、委員と事務局の人数から、UDCBKの開室時には声が聞きづらく、フリースペースの来室者に様々な方が訪れること等から、今回はこちらでの開催になりました。次回以降、閉室時での日程が合えば、UDCBKでの開催を考えておりますので、御承知いただきたいと思ます。

議事に入ります前に、まず、配布資料の確認をさせていただきます。本日の次第1枚と資料1から5でござます。あとプリムタウンの事業概要があります。皆様のお手元にござますでしょうか。

それでは、次第に従いまして進めてまいりたいと思ます。

開会にあたりまして、座長の松原先生から御挨拶をいただきます。

【座長】

みなさん、御苦労様でござます。令和元年第1回のアーバンデザインセンターの運営懇話会を開催させていただきます。いつも御協力御支援いただきありがとうございます。今年8月で今の場所に移転してから丸2年になると思ます。そういう意味で、現在の場所の認知度もだんだんと上がっているのではないかと思ます。今年度の事業計画も本日提案があるようですので、みなさんには、様々な角度から御意見、御提言をいただければと思ます。

【事務局】

ありがとうございました。続きまして次第2番アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会開催要綱および委員について資料1で御説明させていただきます。1枚目の要綱につきましては、今回変更ござませぬので参考に御覧いただければと思

います。2枚目の名簿を御覧ください。今年度初めての事業運営懇話会でありますことと、委員の変更もありますことから、後ほど皆様から簡単に自己紹介をお願いしたいと思っておりますが、今年度から委託させていただきました委員および欠席の御案内をさせていただきます。

まず、新たに委託させていただきました委員の方は、4番の当副センター長で立命館大学の武田様におかれましては、UDCBKの運営に関して日頃から関わっていただいておりますことから委員委託させていただきます。次に、6番の田畑様におかれましては、この度立命館大学地域連携室長に就任されましたことから委員委託させていただきます。次に、7番の伊庭様におかれましては、草津市まちづくり協議会連合会から当懇話会の委員について御推薦をいただきましたことから、委員委託させていただきます。次に、15番の阪本様におかれましては、この度京都橘大学の副学長に御就任されましたことから委員委託させていただきます。皆様どうかよろしく願いいたします。

続きまして、欠席の御案内をさせていただきます。4番の当副センター長で立命館大学の武田委員、6番の立命館大学地域連携室の田畑委員、9番のパナソニック株式会社アプライアンス社の服部委員、12番の草津市コミュニティ事業団の青木委員、13番の滋賀大学の神部委員、17番の龍谷大学の深尾委員より御欠席の御連絡をいただいております。また、14番の秦委員が少し遅れて来られると御連絡をいただいております。

それでは、座長から順に自己紹介を委員の皆様よろしく願いいたします。

(自己紹介)

3. 報告

(1) 実績

【座長】

本日の報告事項ですが、2件ございます。まずは事務局から実績について事務局から報告していただきます。これについては2月に一度報告していただいておりますので、それ以降のところを重点的にお願いいたします。

(事務局から資料の説明)

【A 委員】

オープンスペースの利用は数だけでなく、年代も取っていますか。

【事務局】

そうですね。今手元にはないので分かりませんが、年代もアンケートでは取らせていただいております。オープンスペースの利用者のアンケートは毎回取らせていただいているわけではなく、初めての方に対してアンケートをお願いしているので、すべての人

を網羅しているわけではありません。

【A 委員】

イベントをする時や例えば普通に貸館をする時とか、全体の情報として UDCBK は火曜日はこれぐらいの年が来ていてとか情報としてあった方がいいのでは。

【事務局】

分かりました。

【A 委員】

普通、会社とかサークルとか運営するにあたって必要なものなので、民間などであれば取ると思うんですよ。なので取ればいいんじゃないかと思います。

【事務局】

オープンスペースの利用の方についての年代をということですか。

【A 委員】

そもそもアンケートを取っているなら。

【座長】

今のは、アンケートを書いた人にとっては年代をそこでチェックしていると、アンケートを取った人については分かって、アンケートを取らなかった人は分からないということですよ。

パッと見て、若い世代なのか、子育て世代なのか、中高年なのかというおおざっぱな切り方であれば調べる事はできるかと思います。

【A 委員】

何か事業を組み立てようとした時や、何かアクションを起こそうとした時に必要なんじゃないかと思います。一体どのような人が自分のところへ来ているのか、運営者として知っていたほうが良いと思います。例えば開館時間を来年どうしようかと決めるときにも必要だと思います。

むしろそのような情報を取るようにと私たちは習うので必要だと思います。

【事務局】

はい。年代等は可能な限りで御協力いただくことは考えさせていただきます。ただ、今取らせていただいているオープンスペース利用なんですけどアンケート以外でこちらで把握させていただいているのですが、大まかな枠組みですね。大人であるとか、大学生であるとか、高校生であるという大まかな取り方では取らせていただいております。細かな年代までは取らせていただいております。

【A 委員】

それでいいです。10代、20代が知りたいわけではなくて、いつも何をしても事務所の中からガラス越しに数えておられるのです。高校生、大学生とかやっているぐらいなら、本人に聞いたらどうですかという提案です。

【座長】

事務局が数えているのですか。

【事務局】

はい。数えています。

【A 委員】

はい。事務所の中から数えておられます。自己申告にしたらどうですかって思います。あともう一つ。開所当時から通っている中学生がいて、顔も多分わかっていると思うし、ちゃんと見ていればわかると思うんですが、毎回利用のたびにアンケートを取られるというのがあります。覚えていないんだろうかと聞きました。もう少しいいやり方があるのではないかと思います。

【座長】

オープンスペースの利用者の数え方については、事務局であまり負担にならないようなやり方が何かないか考えておくようにしてほしい。私のイメージから言うとコンビニのPOSで打っているような、パッと見でこれぐらいの年代の人が来てるぐらいでいいのかなと思います。

【A 委員】

いらないなら、いらないでいいのですが、中で取っているぐらいならと思うのと、他の施設、西友2階の子育てのところではもっと詳しく取っているので、取っていてプラスになるのだから、もうちょっと積極的に取る方がいいのではと思います。

【事務局】

はい。

【座長】

ほかに何かありませんか。

【B 委員】

すいません。初めてなので、事業そのものがもうひとつ理解できないのですけれども、アーバンデザインセンターびわこ・くさつというタイトルからすると、都市計画の将来的なデザインを話し合われるのかなというイメージでした。ただ、今の話や去年のお話を聞かせていただくと、オープンスペースでいろんな意見を聞かせていただいて集約して、この懇話会でこれから生かしていくのかなという感覚をもちました。今のタイトルのイメージのように、今後、市の都市計画の構想の中でまとめられるのかなという思いだったのですけれど、そういう感覚でよろしいですか。

【座長】

アーバンデザインセンターも字句どおり捉えれば、このエリアを中心としたまちづくりをどのように進めていくかということ、民と産と学と公でそれぞれの立場で協力して進めていくことがセンターの目的であると思います。それと同時に、このオープンスペースを家庭でもなければ、職場でもない、市民が集まる場として、交流したり議論したりという場所を提供しているというのも役割の一方ではあると思います。C 委員からも

どうぞ。

【C 委員】

はい。まさにまちづくりについて考えて市民の方が情報を得て一緒に議論して考える場でもありますので、ただひたすらまちづくりのハードな事を考えるわけではなくて市民の方も一緒に議論して、みんなが自由に意見を言えるという場を提供するという役割が多岐に渡っているのです、そのうちの一環が先ほどのオープンスペースであると考えています。一つの機能として学習・交流の場でもあるということでございます。

【B 委員】

そこでいろんな意見を聞かせていただいて、何か市の政策に生かせるというか反映させるという感覚でいいのですか。

【C 委員】

はい。すべてを吸収してあげるというわけではないですが、ひいては草津のまちづくりに生かせるようにという意図のもとでの UDCBK であると思います。

【座長】

私のイメージでは、UDCBK はいろんなプロジェクトのもとで動いている。そこでいろんな立場の人が参画して、全体としてまちづくりに役立つようなことをやっていくようなイメージです。具体的には、今年度の事業計画のところで御審議いただければと思います。

【H 委員】

最後の視察のところで、ほとんど行政だと思うのですが、1つ大学が来ている意図をお聞かせいただきたいと思います。

【事務局】

追手門学院大学に関しましては、大学のほうで草津の会というようなものがあるようで、草津に産学公民の連携施設があるということを知られて、どのような取り組みをされているのかということによって来られたものです。それをきっかけに草津で開かれました大学の会の際に、UDCBK の説明に伺う機会もいただきました。

具体的に何か連携するものではなく、そのようなつながりの中からお訪ねいただいたというものでございます。

【H 委員】

大学が総持寺から降りてきたので、その辺で何かされるのかと思ひまして質問をしました。

【E 委員】

追手門学院大学からは新しいキャンパスを作られる事に対して、私も4、5年前ぐらいから相談を受けておりました、大学や地域との関係をどうしていけば良いのかと相談もありまして UDCBK に行ってみたくとお聞きしたのでおつながりしたものです。まさにキャンパスが地域との連携を深める事を進めるためにこちらを訪問されたということ

でございます。

【F 委員】

参考までに申し上げますと、追手門学院大学の入試を商工会議所で毎年されていますので、草津の方が多いのだと思います。

【座長】

他にないようでしたら、第一議題をここまでとさせていただきたいと思います。

特に議決ということではないので、懇話会としては、報告を受けて意見交換をしましたということでもとめさせていただきたいと思います。

(2) 予定

【座長】

続きまして、第二議題でございますが、今年度の事業でございますので、よろしくお願い致します。

(及川委員および事務局から資料の説明。)

【A 委員】

学習事業は分かりました。社会実験事業も分かりました。(資料3の) 1番の1番、2番、3番はどうやってやるのですか。新しくセミナーをするのですか。1番(事業プロジェクト)をどこで、いつ、どんなかたちでやるのかなと思いました。

あともう一つは4番のオープンスペース事業というのはサードプレイス事業という名前ではないのかと思っています。社会実験とかアーバンデザインスクールとかはぶっちゃけですが、社会実験は各大学でやるし、年に数回UDCBKを使っているだけで、アーバンデザインスクールも年に15回ないし30回UDCBKを使ってやっています。それ以外の365日のそれ以外ほとんどがオープンスペースでカポンとあります。そこをどう運営していくかを昨年からずっと言っています。

ゴールドンバーグさんもサードプレイスって人とまちと日常を大きく支える、単に職場と家庭の間の第三の居場所というふわっとした場所ではなくて、ちゃんとそこでの会話からコミュニケーションを行ってもっと有益なものが生み出される場所だと言っていますよね。サードプレイス事業を頑張ってもらいたいと思っていて、UDCBKがサードプレイスだということは2月の議会で市長も間違いないと言っていたので、その力の入れ具合が資料では見えないので、今年はどうするのかを聞きたいです。

【座長】

今、2つありまして、都市連携プロジェクトをどこでどのようにしていくかということが1点。どういうふうに考えているのかということですね。2番目はオープンスペー

ス事業の位置づけ、それをどう具体化していくかということですね。

【A 委員】

オープンスペースだと、今、夕方、本当に塾待ちのママの居場所となっているので、そのために市役所がこの建物を建てて人件費を出しているのはおかしくないですかという去年からの繰り返しをまた言います。その運営を例えば1番でサードプレイスを頑張っていますというのであれば、納得します。まちづくりのためにめっちゃいい場所にしたと思っています。私もできることはしようと思っています。

あと、さっき話少し離れますけど、LINE@めっちゃいいですよ。フェイスブックは特に若い層はしていないので、LINE@いいです。

【事務局】

事業プロジェクトのほうですが、ここに書かせていただいている1から3のプロジェクトを意識しながら学習事業等は盛り込んでいこうと思っています。社会実験の中についてもこの都市デザイン連携プロジェクトが入っております。例えば、都市と交通のほうにつきましては、先程セミナーの時にもお話しましたが県等の職員も来られていますので、勉強会などを今までは別のところでされていたのをUDCBKでしていただいて、委員以外の者がいる場で、一遍には難しいと思いますが少しずつ広がりが出るようなことを意識して取り組んでいくことを考えております。

オープンスペースをサードプレイスに位置づけるということですがけれども、時間帯によっては本当に塾待ちのお母さん方がいらっしゃるといのはよく御存知のとおりでございます。そこをどのように活用していくのかということ、例えば1から3までのプロジェクトを意識して、例えば大学生が打ち合わせに使っている時間に、高校生にどう思っているのかを聞いてもらうことも考えております。一度に声を掛けると不審者が見られることもあるのですが、打ち合わせの見せ方も変えていって、利用者の方同士、他のことに興味が出てくるということも意見で聞いております。

先日もありましたが、スカイプを使って英会話というのをA委員も御協力いただいていたところですので空いている時間帯をどう活用していくのかということを考えていきたいと思っております。サードプレイス事業としてそこを確約するというよりも、オープンスペースの中でサードプレイスを実践していくという感覚で動かしていきたいと思っております。

それに伴いまして、アーバンデザインということで、今年度は過去の事業運営懇話会の中で意見もいただきまして、都市デザインに立ち返る必要があるということもございましたので、今回このようにプロジェクトを立ち上げて、前期につきましてはC委員の方には大変苦心していただいたのですけれども、アーバンデザインの講座をさせていただくことになりましたのでアーバンデザインの中でサードプレイスというものを従来通り行っていけたらと考えております。

情報発信については、また参考になるものがございましたら、教えていただければ検

討していきたいと思います。

【A 委員】

(資料3の)建物自体の使い方については、1番を社会実験とアーバンデザインスクールだけに使うのなら、あの建物を建てた意味がないので、そこは本当に考えてほしいです。

4月から坂居さんと田村さんに来てもらっていて、あその場所で偶然いた人をつなげてもらって新たな動きが出てきているというのは本当に活性化しています。今日、ここに何も載っていないのです。市民が勝手にやっているのです。大学生が小学生と企画をやったり、高校生が大学生と企画をやったり、日々生まれていることなんですが、勝手にやっていることなので、フェイスブックにも載っていないのですが、きっと1年後に大きな花が開くと思っているので、楽しみにしています。そこを見える化してきっちりつつないで成果を上げているのだから、サードブレイス事業として見せていったほうが、地域の人にここはこういう場所なんだとか、この場所のお陰で子どもの居場所になるんだということが分かると思います。

一昨日も不登校の親たちの集まりが自主企画としてあったのですが、そこに来る子を生で見てしまうと、この子は家にいたんだな、もしこの場所がちゃんと市の施設として開放されていたら、めっちゃ来れるんだなと泣いているお母さんを目の当たりにしたりすると、もっとできることがあると思いますので、頑張ってください。

【E 委員】

(資料3の)1番の事業プロジェクトが3つあって小さいのを含めると4つあるのですが、こういうかたちでプロジェクトとして立ち上げたのもUDCBKとして初めてだと思います。ここに書かれた事が単年度で出来るものではないと思います。その上でプロジェクトとして立ち上がっている姿をどうやって見せていくのかということも重要だと思うので、全部一斉に立ち上げろとは言いませんが、いくつかは秋頃に実施される2回目の事業運営懇話会の頃には、このプロジェクトはこんな感じで進めていきますというような感じで誰がこういうことを進めているのかということを見えるにしたほうが良いように思います。(1)は誰があるいは誰たちが具体的にこういうところから議論が始まっているということが分かるようにしたほうが良いと思います。そのことが社会実験準備事業の特に区分Aは関わるのだと思いますしそれと連携しながら進めていくと思うのですが、他に独自にUDCBKとしてどう進めていくのかということもあると思いますので、こんなことが誰が中心になってやっているというのが追々見えていくといいと思います。今の段階ではこんな事をするという宣言だと思うので、それは大事な事ですが、次の段階として具体化していくのがあったらいいなと思います。

【C 委員】

まったくそのとおりだと思います。実は準備を進めておりまして、プリムタウンの1号公園のほうは、組合の方とか、市の方と集まって何回か情報交換を行っております。

したがって、住民をどのように入れて、市と大学でどのような場でどのような議論の場をつくるかという議論に入れるかなという段階です。

もう一つの地域再生計画についても何回か説明していただいたり、意見交換をしておりますので、話し合いの場の作り方に関わってきているのかと思いますので、おそらく次回の運営懇話会では何らかの進展が報告できるかと思います。

あと資料4の一番後ろの5番の楽しく歩ける路面標示のデザイン、これも交通プロジェクトの一環だと思っておりまして、早急に健康福祉政策課とタッグして、UDCBK、かつどこかの大学も入ってくればパワフルだと思っています。

あと細かいところはそれぐらいで、大きなシミュレーションは今年体制を作っていくのは厳しいところで、あちこちに情報交換してまわるくらいかなと思っています。

それから、大学生が住むまちプロジェクトのほうは、公民学で今のところ情報収集、情報交換の段階でして、こういう組織ができましたと次の懇話会で報告できる自信はありませんが、それに関連することは何らかの活動ができる努力をしていきます。

【G 委員】

今の状況を報告させていただきますと、プリムタウンについては、平成29年度から4期に分けて工事を始めまして、今年6月に1期工事が完成しまして、7月から供用されて、そこから家が建ってまいりますので、街並みというのがある程度見えてまいります。公園についてはもう少し整備が遅れますので、小さいのを含めて6つあるのですが、それからということになりますので、これから御協議いただくこととなります。

地域再生計画については、市内に14学区ありますがその内市街化調整区域は7学区ありまして今後御相談させていただきながら進めてまいります。

交通については、南草津駅周辺の国道、県道も含めて意見交換しているところで、市、県とも大きな課題として捉えておりまして、令和2年には交通の社会実験を予定しております。それと、今いろいろと御迷惑をおかけしているのですが、十禅寺川の横の道、南山田の抜け道が非常に狭かったのですが、大きな改修工事についても今年度中に完成して、6メートルにして、令和2年に交通の社会実験をすることで進めておりますので、まちの中としては、イメージが湧いてくるかと思いますので、その都度、御協議させていただければと思います。

【座長】

今年度は大きく3つのプロジェクトを立ち上げますという宣言をまずは懇話会に対して報告しているということですね。ただ、プロジェクトについては、準備が先行しているものもあれば、まだこれからというものもございますので、少し具体化の進捗には差があるということだったと思います。

また、都市交通については、来年度から社会実験が始まるということですね。南草津駅の西口にマイカーの出入りを集約して、反対側に公共交通を集約するという社会実験を行うということですね。そういう事業についても交通ということでアーバンデザイ

ンセンターの事業を進めていくということですね。

【H 委員】

質問と要望があります。質問は社会実験準備事業ですが、1件あたりの委託金の読み方がよく分らないです。要望は、去年採択させていただいて、本学の研究者がさせてもらったのですが、お金が非常に使いにくかったということでしたので、どこがどうかということはよく分かりませんが、要望として伝えておきます。

また、事業プロジェクトで草津市にどこまで言って分らないのですが、国体で体育館が本学の前に建つ話になっていると思うのですが、交通整備はぜひ盛り込んでいただきたいと思います。本学の大学は天津で、病院は草津となっているのでややこしいのですが、天津市はこのようなアーバンデザインセンターを持っておられませんので、代わって交通整備は是非やってほしいです。

【G 委員】

県の山手幹線につきましては、国体までに暫定整備ということでダイキンのところから栗東に繋げる道は進めております。また、県立体育館については、平野南笠線という都市計画道路を近江大橋から山手幹線までつないでほしいということは、事業化に向けて進めてほしいと県に要望しており、県と勉強会もしております。国体までにはとても間に合うものではございませんが。

【事務局】

委託料の金額の件ですが、50万円は全体の予算のマックスでございます。上限額というのは、Aの場合は30万円までで、Bの場合は20万円までで提案をしていただきたいということでございます。出てくる件数を例年の平均で考えているのですが、例えばAが2件出てきましたら、極端に言えば25万、25万ということになります。Bのほうは例年2件から3件出てきておりますので、上限20万と設定させていただいております。

【H 委員】

予算としてはA、B別に組んであるということですね。合わせて100万円ではないということですね。

【事務局】

そのとおりです。

【C 委員】

お金が使いにくいというのはどういうことですか。

【H 委員】

詳しく聞いていませんが、このようなお金なので仕方ないのですがとても細かいと聞きました。

【事務局】

お金の使い方もそうですが、昨年度は期間がタイトであったので事業が組みにくかつ

たということも大学様から聞いておりますので、そういうことも合わさってかなと思います。

【I 委員】

A と B の違いはほとんどないのかなと思ひまして、A のほうは事業プロジェクトに結びついていると考えればいいのですか。

【事務局】

A の方は事業連携プロジェクトの特に都市デザイン連携プロジェクトのほうにかなり強く結びつくようなテーマの設定させていただいております。昨年度、行政同士の結びつきも弱かったので、都市計画部で実際に今動いているものを聞きながら、直近に活かせる事、10年後、20年後に活かせることを組み合わせ、A のほうに事業プロジェクトの考えが入っております。

【B 委員】

事業プロジェクトのほうで、都市デザイン連携プロジェクトの①の中の具体的に南草津のプリムタウンの公園だけとなっているのですが、プリムタウン全体の都市計画を考えた方がいいのではないか、どういう街並みの仕上げをしようかというような具体的な話ができるようであれば全体のいろんなイメージを考えた方がいいような、部分的な公園だけという話ではないような気がします。

【G 委員】

プリムタウンについては、組合の施工事業ということで今やっております、その中で市も関わり、街並みとしては区画や公園がいくつかあります。そこで地区計画を含めたいろんなものがありまして、街並みについては全体の計画の中で、組合の中でこれまで計画されておりますので、区画についてはこれでいかせていただきたい。公園等の街並みについては、今からできるところについてさせていただきたいということでございます。

【B 委員】

公共的な施設はそれでいいのですが、具体的に建物が建っていくと、建物の色合いなど、イメージでこういう感じのまちをつくりたいという話ができればいいと思います。

【G 委員】

すでに地区計画を導入して、共住空間なり、セットバックなり、緑化なり、そのようなところは地区計画でさせてもらって、私も詳しいことは答えられませんが、個々の家の色合いなどを含めて計画をさせていただいたところです。良好な環境については地区計画で定めております。どのような街並みを目指して、緑化空間を整備していくのかということについては、また確認させていただいてご報告させていただきます。

【I 委員】

区画整理で地区整理をされているのは部分的ですか、全体ですか。

【G 委員】

全体です。

【I 委員】

それではある程度方向性ができる中でされているという事ですね。

【B 委員】

草津駅側だと、宿場町としてのイメージがあるが、地区でこのようなイメージをもって街並み形成していこうと意思決定が出来るといいなと思ったのです。個人でも赤い屋根の家が一棟だけ建っているとイメージにそぐわないので、全体のイメージをもって進めていき、その中で公園など公共施設を考えていければと思いました。

【C 委員】

おっしゃるとおりだと思います。UDCBK ができて関わったのが遅く、すでに地区計画が張ってあるところに関わっていますが、エリアマネジメントに通じては長いスパンになります。自治会長とかいろんな人たちとどうやって良好な環境をつくるのかということがこれから関わるができるかと思っております。いずれ地区計画に関しては、次回の事業運営懇話会の時にでもお知らせいたします。

【J 委員】

1号公園だけがここで取り上げられているのかというのが分かりにくいのではないかと思いますので、そこだけ説明いただけると良いと思います。

【C 委員】

最初に工事に取り掛かるのが1号公園ということでございます。順番のことで1号ということです。

【G 委員】

4期あるうちの1期が1号公園でございます。1号公園でまずは行って、その後、同じコンセプトを他の公園に適用していきたいと考えております。ちなみに、第1期については、9割方売れているそうです。

【座長】

今日出していただいた御意見は事務局の方で引き取る所は引き取り、次回、プロジェクトについては、具体的なところを報告いただけるということ、プリムタウンに係る具体的な資料については後で提供いただくということで受け止めさせていただきたいと思っております。全体としての枠組みはこのような形で進めさせていただきたいと思っておりますので今年度お願いしたいと思います。また、途中であっても、具体的にこのように改善したほうが良いということもあろうかと思っておりますので、UDCBK の定例会等で具体化していければと思います。

【A 委員】

事業運営懇話会のメンバーを見て、去年からも思っていたのですが、この女性一人というのは、ほかであんまりないと思います。この懇話会の女性一人というのは頑張った結果なのか、それとも何も考えずにこうなったのか。もし何も考えてなかったら、めっ

ちゃ怒ります。草津市は3割目標ですよ。

【事務局】

委員さんについては、各団体から御推薦をいただいているので、それぞれの団体の御事情もあって、このような状況になっているのだと思います。

【A委員】

女性を入れるのは、ここの責任だと思います。

【事務局】

要項改正の時期などに、可能な範囲内で、女性がおられたらというお声がけもさせていただきたいと思います。

【A委員】

産学公民というのなら、UDCBKを使っている人はほぼ女性でいくらでもこの時間帯に出席してくれる人はいるので一人ぐらい直ぐ入れられると思います。

【座長】

課題とさせていただきます。次回改正するときはしっかりと意識してやっていくということをお願いします。

4. 閉会

本日は議事の進行に御協力いただきまして、ありがとうございました。活発な御意見も頂戴いただきありがとうございました。今年度も引き続きUDCBKの運営に御協力をお願いします。